

祇 王 井 の な が れ						
紀元	時代	逆算	郷 土 の う ご き	近 江 の う ご き	日本と世界のうごき	問題
元	原	2000	郷土の夜明け それは北の湖岸からか、それとも南の丘陵からか、われ等に大きな課題を与えている。 野洲川と日野川は夢のような大昔から今も尚、営々として川上の風化した土砂を運びつづけている。当時の野洲郡は今日の野洲郡とは、かなり違った形であつたろう。 本郡からは、まだ石器は発見されていないが、野洲平野の南（常盤村）からは石剣石斧、さては銅たく等も発見されている。（日本最初の石器の研究家、木内石亭の墓は守山今宿本像寺にある。） 野洲川の川沿新田が作られ、野洲川の成長、それはとりもおさず、野洲平野の成長となつていった。このころは、度々洪水があつて、その度毎に川筋がかわつたことだろう。わが郷土の創世記にあたる。	私達の遠い祖先は びわ湖のまわりに生活していたようだ。その遺物は大津の滋賀里や石山、東浅井郡の尾上、蒲生の安土等から出てくる。また人々は、びわ湖にそそぎこむ川をさかのぼって生活した。たとえば高時川、草野川、姉川の上流にもそれ等の人々の遺物が出てきた。こうした長い縄文式文化の時代がすぎて、ちょうど夜から昼にうつるように、だんだんと弥生式文化の時代となつてきた。大津市、長浜市、栗太郡常盤、野洲郡兵主、蒲生郡北比都佐等にそのあとを見ることが出来る。これ等は野洲郡や蒲生郡から出た銅たくと共に、われわれの遠い祖先が残したものである。	縄文式文化の時代 この時代は大へんながく、人々は石の道具を使っていた。しかし後の世の文化の源はすでに芽ばえていた。  朝鮮半島にできた漢の楽浪郡は日鮮の開明にたいそうよい影響があつた。この頃には貝塚がなくなり 弥生式文化の時代 となつた。舟に乗り網で魚をとり、水田で稲をつくる。ヨーロッパではギリシャが衰えローマ帝国が栄えていた。わが国では石器と共に金属器も使われ水田耕作も行われた。	標高百米の等高線を地図の上にかいてみよう。 諸川の間にある古琵琶湖のなごりの沼沢地は今はどうなっているか。
	時 代					130

紀元	時代	逆算	郷土のうごき	近江のうごき	日本と世界のうごき	問題
100	大和時代		こうして土地ができ てくると国の内外か らこの地に 人々が移ってきた。 本郡の東隣の鏡山、 西隣の常盤村さては 北の兵主にも遠いと ころから人々がきた といわれる。	滋賀郡の湖水べりの地 方がまず開けてき た。 そして大和と越との いききが盛んとなっ た。	耕作、かんがい治水 など村全体が力を合 わす仕事が入ってきた。  大和の盛大	外国の人や文化が入ってきた水の脈を考えてみよう。 御上神社は鍛冶の神さまだといわれるのは農具と関係があるのだろうか。
200			南の山手の小篠原 (14)鏡の山面(2)中 洲の新庄(4)から銅 たくが発見された。 これは 豪族の分布を示すもの で、とりわけ小篠原 からは14個もみつか り、その一つは1.26 m、50kgに近く、日 本一の大きなもので ある。	後の大津長浜県のよ うに 淡海安国造と 近淡海国造と いうぐあいに分けて 治められていた。広 神天皇はたびたび近 江をお通りになっ た。	この頃大和地方を中 心に文化はすすん だ。いきいきとした 発展の姿は日本武尊 の伝説でも分かる。  漢字が伝わる	
300			ひらけいく野洲平野 に最初の鋤をうちこ んだのは野洲川の川 上、人呼んで御上と あがめた 三上の祝であった。 これより本郡の農業 経営は次第に、発展 していく。	当時近江の国の主な 人は三上山の近くの 三上祝と伊吹山の近 くにいた、 息長氏で、それから後 は朝廷からつかわさ れた佐々貴山君、小 槻君、三尾公等によ ってだんだんと開け てきた。	日本は、ほぼ統一さ れ、さかんに大陸文 化をとりいれ、とり わけ 朝鮮半島から国内の争 いをさけて大陸や半 島の人々がたくさん 日本へ来たので、い よいよ文化がすすん だ。	
400			伝説ではあるが小堤 の西池はこのころの ものだといわれる が、こうして貯水池	このころ大きな墓が つくられ、それはと りわけ 湖東平野と湖西の一部	古墳文化の時代これ等 の人々によって池、 溝、堤防や産業技術 がすすみ高級の絹織	131

紀元	時代	逆算	郷土のうごき	近江のうごき	日本と世界のうごき	問題
500	大和時代	1500	がほられ、耕地がま していくと、それに したがって方々に古 墳が築かれた。すべ てひらけいく郷土の エルサレムの地とも いえよう。その中で も 富波古墳からは、優れ た中国の鏡が三面も 出た。辻町の大塚山 古墳は美しく、近ご ろ発見された辻町の 宮山古墳は四十に余 る櫻生古墳群の埋蔵 文化財を語る。	に多かった。大津の 膳所、滋賀の眞野、 栗太の治田、坂田の 息長、蒲生の安土、 野洲町、高島町の古 墳は名高い。	物や工芸が発達し た。これは古墳の中 の遺物でわかる。	野洲川の川沿新田と野洲平野とは古墳の大きさが違うのはなぜだろう。また中仙道の北と南の古墳数を較べてみよう。
			野洲川をはさんで西 に淀三宅、東に市三 宅の地名があるのも みのりのゆたかな野洲 平野を語るものであ ろう。それと共に交 通上からもこの土地 が大切なところとな ってきた。	あしうら みやけ 芦浦に屯倉が おかれた。屯倉は経 済的にねうちのある 処におかれたのであ る。もう、この頃、 瀬田川には船が通っ ていた。	こうして外から来た もので一番大きな影 響のあったのは、 仏教の伝来である。 そして日本の国を自 主的な文化国にする ためにつくされたの は聖徳太子である。	
			五之里の名はこの頃 のなごりだろうか。 672年の野洲川の戦 がすむと志賀の都は 大和に移る。この頃 野洲川の東に福林 寺、西に 益須寺が造られた。 とりわけこの寺に は、たくさんの人が 来てその醴泉にひた	それから、広い 蒲生野をはじめ、 神崎郡や栗太郡の治 田等に多くの人々が 国の内外から移って きたので耕地が一段 とふえてきた。	小野妹子が随にわた り、その後人々が唐 へわたり、これ等の 人々の力で 大化の改新が なされた。朝鮮の百 濟が滅び、多くの 人々が日本へ移って きた。	
600						

紀元	時代	逆算	郷土のうごき	近江のうごき	日本と世界のうごき	問題
700		1200	ったと日本書記にかいてある。			都うつしに材木がどんなに大切だったかを考えてみよう。 重要文化財が現在の天台宗に多く残っているわけを、いろいろの角度から考えてみよう。
	奈良時代		紫香楽宮が造られると、郷土の背戸もあけはなたれ、咲く花のおうが如き奈良の都が <small>いかだ</small> 野洲川の筏流しの歌声によって次第にととって行く。聖武天皇も野洲頓宮におとまりになった。造地使淡海三船によって耕地がまして来た。奈良の大安寺派の寺が多くこの地につくられてきた。	近江の産業は進み、新しい銭や美しい綾錦もここでできたといわれる。 紫香楽宮が造られ、大道が甲賀に通じ、保良の宮も造られた。 このころから近江の風光もみとめられてきた。	奈良の都 米のほか、いろいろ作物の種類も増し、絹織物を税として出す地方もできた。 都を中心に七道が造られて駅制が定められた。 <small>ほっかい</small> 遠い渤海国からの使も来た。 都は間もなく京都にうつった。	
800	平安時代		これらはやがて比叡山の法燈になびき、天台宗にかわって行く。今に残るこの郷土の主な仏像の多くは 天台美術とも言うべきである。 庄園がいよいよ盛となってきた。郡内の土地35町歩を本康親王にと言う具合にこの地方が最良の庄園となってきた。 五之里の妻の神社はこのころの創立といわれている。	伝教大師が出てから各地に多くの寺が建てられ伊香郡の渡岸寺の観世音等、すぐれた仏像が作られた。 高島郡に悠紀斎田が定められたことがあった。 <small>あすは</small> 今の東海道、当時の阿須波道が開かれた。	ヨーロッパではフランス国が三つに分かれて、独・仏・伊のもとをつくり、イギリス・ロシアも興った。日本では 王朝文化の花がほころびそめた。	133
900						



紀元	時代	逆算	郷土のうごき	近江のうごき	日本と世界のうごき	問題
1200	平安時代	700	<p>いわれている。 当時、この村の山の手を通っていた道を不破道（美濃路）といわれて大切な道であった。 鏡の元服池や篠原村の平宗盛の胴塚はこの頃の物語である。 上屋の小字大別当はこのころの庄園制に関係があるといわれている。 この頃の富波庄・江部庄の二つが今の祇王村である。</p>	<p>京都疏水、野洲郡の祇王井川等がある。 源頼朝が將軍となると佐々木氏が近江の守護となり、以後四百年間この地に勢力をもった。</p>	<p>遠征軍が起された。 平氏をほろぼした源頼朝は鎌倉に幕府をひらいた。</p>	<p>平家が国を富す為どんなことをしたか調べてみよう。 土地の開拓と神社の関係を考えてみよう。</p>
	鎌倉時代		<p>旧国宝でしかも本郡最古の生和神社本殿やその末社春日神社重要美術品である常念寺の石造層塔は、この頃造られたもので、新国宝御上神社もこの頃のものである。 京・鎌倉間の交通が盛んになって軍記物語や紀行文にこの地方のことが美しい文でかかれた。 親鸞聖人が木辺の天安堂に一夜の宿をせられたのもこの頃の伝説で、この頃から天台以外の寺がふえてきた。 北村の小字兵頭は</p>	<p>本県最初の国宝である石山寺の多宝塔が建てられた。この頃の建築、彫刻には御上神社をはじめ、たいへんすぐれたものが今に残されている。 東海、東山の街道が整えられ、京・鎌倉間のいききで近江は大切な場所になってきた。 蒲生の保内、神崎の小幡の商人が活躍し出した。</p>	<p>農村には領主や名主によってさかんに神社や寺が建てられ、村人の精神の中心となった。 関東平野の大開墾が北条氏によってなされた。 牛の使用もふえ市場もしだいに定期的に行われだし、銭が農村にまで流通しだした。</p>	

紀元	時代	逆算	郷土のうごき	近江のうごき	日本と世界のうごき	問題
1300	室町時代	600	<p>兵主社領、富波小字仁内寺は本郡にかなり広い面積をもっていた仁和寺領で、五之里小字北恩常寺、恩常寺は園城寺領であったといわれる。このころ祇王篠原の山手に佐々木氏が多くの城をこしらえて一族でかためた岩倉・古城・彌勒・寺城・星ヶ峰城等がそれである。</p> <p>金森、大林城もこのころつくられ志那海道も発達し出してきた。</p> <p>武将によって上屋の篠原神社に多くの土地が献ぜられたり永原に寺院が建てられたりした。菅原神社も1360（正平15）に再興されている。</p> <p>このようなことは郷土の他の方々にも行われた。</p> <p>常念寺が天台から浄土に転じたのも、このころである。（1369）</p>	<p>この頃坂本は日本の指折りの町となった。国が乱れてこの近江も戦の舞台となり</p> <p>佐々木氏も大きな役割を演じた。</p> <p>南は甲賀の信楽から、北は伊香のはしまで戦がくりひろげられた。</p>	<p>庄園制もくずれて守護大名の成長となった。</p> <p>守護は、自分の実力で収め取った領土を代々子孫に伝えた。</p> <p>この頃ヨーロッパでは文芸復興期にはいる。</p>	<p>古城山や城山等の山城が作られたのは何故だろう。また彌勒寺城等、寺と城とが一つだったのはなぜだろう。</p>
1400			<p>永原城主</p> <p>永原宗行野洲郡内に十八郷増地とか永原家長江州永原城主とか明記された文書がある。佐々木一族と</p>	<p>ばしゃく馬借といって物を運ぶことを生業としてい</p> <p>る人達があばれた。</p> <p>用水争もこの頃から度々おこり、とりわけ愛知郡安孫子と</p>	<p>幕府の重臣の間でもつれがおこり</p> <p>応仁の乱をきっかけに天下は乱れたが、かえって京都の文化は地方にひろまった。</p>	

紀元	時代	逆算	郷土のうごき	近江のうごき	日本と世界のうごき	問題
1500	室町時代	500	<p>して、この他を治め辻町の城山に出城を築く。このころ蓮如上人來り本郡の寺院で真宗に転ずるもの多く富波の光徳寺（1478）等はそれである。</p> <p>また寺院神社が兵火で焼かれたり、また武将によって創建再建されたもの多し。福泉寺が將軍義持によって（1421）建てられたり、菅原神社が領主永原越前守重秀によって再建され、常念寺が永原氏の菩提所となったりした。</p> <p>常念寺の旧国宝阿彌陀如来はこの頃のもの（県教委目録）といわれ、また鎌倉末のもの（郡史）ともいわれる。</p> <p>妓王寺はこのころ村人によって建てられたといわれる。（郡史）</p>	<p><small>おしたて</small> 押立とははげしかった。</p> <p>坂本関七ヶ所等多く湖辺に關を設け税をとった。</p> <p>近江商人はますます商売の範圍を拡め、行商区域のことで争うこともあった。</p>	<p>コロンブスのアメリカ大陸発見もこの頃で、日本人も遠く海を渡り、アジアの近海であれば、倭寇といわれたものもあった。</p>	<p>永原氏と常念寺との關係を調べてみよう。</p> <p>妓王寺が領主でなく村人によって建てられたのは何故だろう。</p>
	代		<p>永原の宿守山宿と共に名高く宗牧もここで宿泊している。（1544）</p> <p>○ヨーロッパの宗教改革と調子を合わせたように五之里</p>	<p>坂本・大津・今津・長浜・八幡・舟木・朝妻は大変よい港町であった。</p> <p>木の浜はえりのおや郷<small>さと</small>とよばれた。</p>	<p>新しい村（郷村）制ができた。</p> <p>農業の技術が進み、手工業が盛んになり、商業も活発になってきた。</p>	

紀元	時代	逆算	郷土のうごき	近江のうごき	日本と世界のうごき	問題
1500	室町時代	400	<p>の浄円寺富波の遊林寺等は天台から真宗にかわっている。福泉寺や常楽寺が焼けたり常念寺が安土豊浦に移ったりもどったり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>郷土の宗教は大きくゆり動かされたが金森合戦でおちつく。</li> <li>足利將軍義澄が近くの岡山城で子の義時も穴生で死にその子義昭が落ちぶれた身を一年この郷土矢島御所で過ごす。</li> <li>守山砦の攻防や野洲川の戦、さては木ノ浜城の焼かれる等、郷土ははげしくゆり動く。立入宗継も此頃の人</li> </ul> <p>野洲川の大洪水は中洲村九百戸の浸水をまねき、「せんど積んだに夜の間にがりり百姓だおれの戸田堤」の歌通りで、人柱になった「あい女」の物語もある。</p> <p>中北明覚寺も水難のため（天正8年）流失した。</p> <p>野洲川沿岸の幸津川乙窪に茶樹が植えられた。</p>	<p>信長が瀬田橋をかけかえた頃から近江全体に新しい活気がみなぎってきた。</p> <p>太閤検地は近江出身者石田三成等の奉行によってなされ、当時米は775,000余石といわれている。</p> <p>百艘船が定められた。</p>	<p>イギリスはエリザベス女王の時代であるが、日本でも海外発展の気風がいよいよさかんとなった。</p>	<p>この頃の家棟川はどんなものだったろう、一年に三センチメートル土砂が堆積したと仮に計算して今の高さから差し引いて見よう。</p>
1600						

紀元	時代	逆算	郷土のうごき	近江のうごき	日本と世界のうごき	問題
1600	江戸時代	350	<p>永原御殿繁栄する。 家康慶長5年、19年秀忠19年、数日ここにとどまり政治をみる。</p> <p>○野洲川善岸堤はきれて河西村大いに荒れる。</p> <p>○当時野洲郡の石高約61,350石で祇王村の石高約 6,550石で、郡の11パーセント(1634年)</p> <p>○灌漑用の井水から江部三庄(永原、中北、北)と虫生との間に長い間水論続く。 (1667年～1694年)</p> <p>○江部天神の連歌と呼ばれる郷土文学さかえる。この宗匠の家より北村季吟、湖春出で幕府の歌学方となる。</p> <p>○朝鮮、琉球の使が朝鮮人街道の方を参勤交代の大名は辻町の方を通った。このころは十数藩であるが、後程通る数は増した。</p>	<p>蝦夷前地方で漁場請負等漁業方面に活躍した</p> <p>近江商人の富と意気はやがて町人文化の栄える基をなした。近江聖人中江藤樹など先覚があらわれた。彦根藩などもしきりに新田を開き、河川をなおし植林をおこなった。びわ湖の水運もこの頃が一番盛んであった。</p>	<p>織田、豊臣時代がすんで、徳川の時代となり、鎖国政策も実行されて、だんだん国内が落ちついてきた。名主や庄屋の力が強く、その人柄が村人の生治に大きな影響を及ぼした。男尊女卑の気持が強くなってきたが都市の文化は明るくなった。元禄の文化が生まれた。</p>	<p>本村の石高が本郡の十一パーセントを占めていた昔と今の供出量を較べて何がわかるか。</p> <p>この地から北村季吟が出たのは偶然ではない。一村の文化向土が大きくどんなに影響するか考えよう。</p>
1700		250	<p>北村の北村可昌、京都御所に参り霊元上皇に書を講ず。</p>			139

紀元	時代	逆算	郷土のうごき	近江のうごき	日本と世界のうごき	問題
1800	江戸時代	150	<ul style="list-style-type: none"> <li>○野洲川よく氾らんを起す。 しかし郷土の産業はよくすすみ兵主かぶら、矢島大根、篠原餅から野洲ざらしさでは永原名物火打石とて族の人に親しまれた。 おいしい野洲米、とりわけ、はりまだ米のかげには百夜にわたり、伏流をもとめた、田中幸右衛門あり。</li> <li>○北村の木村鳳梧、紀州大納言の学問の先生となる。 (1736年)</li> <li>○ここ百年間、本郡本村の石高は増えていない。(1728年)しかし、これから開こんが、すすめられる。</li> <li>○野洲川のやな漁も栄え、木浜のえりの親郷いよいよ栄える。</li> </ul> <p>水論 北村と小南との間に川ざらえのことから水論起る。(1770年)</p>	<p>河をつくることがたびたび計画された。 田中幸右衛門によって田用水が引かれたり、そのほか人々は山野を開こんし、自然を利用して生活を豊かにしてきた。蚊帳、さらし、浜ちりめん等近江の物産が増えてきた。 しかし洪水や日でこりがたびたび起り、人々は飢に苦しむことも多かった。</p>	<p>物の種類が増した。 米將軍吉宗のころから治水の技術もすすみ、実用の学問も発達した。 しかし、ききんもたびたび起り人口も増さず、2,800万を上下していたといわれている。 イギリスの植民地であったアメリカ十三州が独立して合衆国となった。</p>	<p>水争いの論場の位置をしらべてみよう。 中央の將軍の政治がどんなにこの地方にまで影響したかを調べてみよう。</p>
			<p>野洲川村変わらず荒れる。 野洲郡の湖岸の干拓</p>	<p>近江八景が美しい版画で紹介された。</p>	<p>フルトンの汽船もこのころ発明された。 当時わが国には良い</p>	

紀元	時代	逆算	郷土のうごき	近江のうごき	日本と世界のうごき	問題
1800	江戸時代	86	<p>すむ。新田開発すむ。</p> <p>天保義民とよばれる三上騒動起る。検地十萬日日延べをみとめられる。しかし庄屋土川平兵衛等の十一人江戸で獄死する。</p> <p>当時学校は寺小屋といっ郡内で十三個あった。</p> <p>永原の玄々堂には村田牧太、富波では林了教というお坊さんが読書算数を数えていた。</p> <p>万延元年（1860年）野洲郡の石高約65,700石となり、230年間に約4,400石増加。祇王村はわずかに220石のみを増加した。</p> <p>村田むつ 京都御所火災のとき、御幼少の明治天皇を負い奉って避難する。 (1854年)</p>	<p>運河をつくること が、いよいよ大きな夢と なった。</p> <p>伊能忠敬も近江国を 実測した。</p> <p>模範的農村が彦根藩の西村助之丞によってつくられた。 水や山と取りくむ先覚が多くあらわれてきたのも、このころであった。</p>	<p>藩主が多く出た。</p> <p>農業と工業とまだはっきりと分かれていないが、しかし新しい生産の仕方が生まれてきた。そして農村市場もひろがり家内工業も発達してきた。</p> <p>科学的精神がつちかわれて、ヨーロッパの技術や理論をとり入れていく素地ができた。</p>	<p>部落保存の古地図で込田を検べ、それが今日どんなになっているか、くらべて見よう。</p> <p>祇王村の耕地がまさないのは何故だろう。耕地のまさないのは戸数や人口数に増し方のすくない原因ともなっている。</p>
1867						141

紀元	時代	逆算	郷土のうごき	近江のうごき	日本と世界のうごき
1868	明治	85	この頃祇王村は、十六の領主に治められていた。野洲郡第四区となる。今の野洲町小篠原、久野部、篠原村小堤を含む。童子川、石田川を米運びのため運河として利用する。 当時野洲郡の人口 35,826人 本村の人口 2,451人 常念寺に七ヶ字の学校つくる。正徳学校。北村に研精学校。 この頃 上屋篠原神社水害を受ける。 明治天皇、辻町森六兵衛方で、おやすみ。前後二回。 守山に郡役所設けられ(11年)まもなく栗太郡と合同して草津にうつる。(13年)	二百余りの領主に治められていたが、次第に幾つかにまとめられ、ついに明治5年滋賀県となった。当時人口は58万人弱であった。 この頃、日本で始めての砂防工事が甲賀栗太で行われた。 水産会ができて湖魚をふやすよう力を入れた。また汽船が発達したり、道路がよくなり、人々が政治にも心をとめるようになって、木版ずりではあるが琵琶湖新聞ができた。 そして明治12年には県会も開かれた。	維新戦争が終って新しい日本の形がととのえられてきた。この頃イギリスはヴィクトリヤ女王の時化で、ドイツはビスマルクが出て強い政治をしていた。当時わが国では文明開化という言葉が盛んに使われ、日々の生活が西洋化していった。これと共に自由民権の思想が盛んになった。 殖産興業富国強兵の旗じるしをかかげて、すすんだ国々の産業をとり入れた。 英、米、仏の人々の考え方、とくに後にはドイツ人の考え方が強く影響した。
	5	80			
1883	6	70	永原村できる。今の小堤、大篠原、久野部それに虫生を含む。 尋常科永原小学校。 虫生の樋について祇王、中里村長覚書交換。 義王村できる。(今の七大字である。)第一代村長岩田重吉、第二代村長山本仁三郎、第三代村長藤村友市。 東海道線が通り、トンネルが出来る。	試作場を設けたり、共進会を開いたりして、よい農作物を作るように苦心された。じけじけした土地の水はけをよくしたり禿山に植林を行ったりした。 びわ湖に日本最初の鋼鉄船 太湖丸を浮かべたりして興隆期日本のいきごみは、とくに本県にも、はっきりとあらわれた。	今迄のような米麦一式の外にいろいろな農産物が作られるようになった。 綿より絹へ 輸出もふえた。中でも生糸と茶が一番多かった。 このころ幕末以来、外国とたいそう不平等に結ばれていたところの条約を改正することにした。しかしまだ十分とはいえ
	11				
	16				
	18				
	19				
	20				
	22				

紀元	時代	逆算	郷 土 の う ご き	近 江 の う ご き	日本と世界のうごき			
1900	23	53	童子川、大溝川の堤きれ る。これより明治末まで に、24回。	県教育会も、明治20年に でき、この頃になると 教育もよくいきわた り、明治29年には小学 校も百人につき男子は 79人も来るようになっ た。しかし女子はまだ 僅かに56人だった。 この年の大水害はひら けいく琵琶湖に一つの 方向を与えられたもの ともいえる。	なかったが、明治の 終わりには全く平等 となった。 貿易がすすむにつれ て日本の軽工業も一 応でき上った。 このころ外ではギリ シャ、トルコの役、 アメリカ、イスパニ ヤの戦争、南阿戦争 がつづけられた。			
	24		野洲駅できる。					
	25		義王尋常小学校できる。 翌年高等科併置。					
	26		辻町山上の沈砂地でき、 義王隧道、家棟川砂止工 事できる。					
	27		校舎改築。 義王を祇王と改める (27.10.13)					
	28		日清戦争本村より20名出 征戦死なし。 矢萩樋田水権事件28年よ り起り、32年までかかり、 大審院にまでおよぶ。					
	29		大水害本郡死者9名。 中島資行県会議員。第一 期郡会議員木村松五郎、 岩田重吉。					
	32		耕地整理はじまる。					
	33		50			野洲郡役所が野洲に設け られ、郡制がやめになる 大正末まで続く。	人々の注意がびわ湖に むけられ、琵琶湖治水 会も生まれたがこの時 期の最も大きな事業は 南郷の洗堰の大工事であ った。 このほか水産試験場、 工業試験場、さては物 産陳列所を設ける等盛 んな気運がみなぎって いた。 そして古い伝統をもつ 信楽焼や甲賀、蒲生の売 薬、それに浜ちりめん は、いちじるしい発達	日本では 国家意識が大そう強め られてきた。 日露戦争のころから 中国や南洋、ヨーロ ッパにまで貿易が盛 んとなってきて、織 物や雑貨を売って機 械や工業の原料を多 く買入れた。 そして機械工業が発 達した。こうして産 業をすすめるため技 術の教育に力を入れ た。また理論の研究
	36					第二期郡会議員白井伊兵 衛。岩田重吉県会議員と なる。		
	38					祇王村508戸 2,990人 野洲郡7,322戸 43,068人 日露戦争本村より60人出 征、戦死田中寅吉、藤村 幸市、田中亀吉。		
	40					第三期郡会議員山本伊三 郎。岩田重吉。知事より 表彰。		
	43							

紀元	時代	逆算	郷土のうごき	近江のうごき	日本と世界のうごき
1912	44	41	岩田重吉 郡会議長（第四期） 第四代村長福谷伝蔵 （44.12.4 - 大4.12.7）	をとげた。 姉川流域の大地震、木之本町の大火災、こうした天災人災を重ねつつ大正時代へと入る。	もすすみ 科学の発達、大森房吉、長岡半太郎、木村栄、北里柴三郎等多くの科学者たちを生んだ。
	大正24		笠原水害 死者20人 第五期郡議員白井伊兵衛。学校林造らる。北村季吟に従四位を贈らせ給う。 第五代村長山本仁三郎 （4.12.7 - 6.4.29） 第六代村長田中豊吉郎 （6.4.29 - 7.4.12） 辻町の隧道できる。 大正天皇辻町御通過 （6.11.14） 第六期郡議員田中豊吉郎 第七代村長国松伝蔵 （8.1.26 - 10.4.23） 祇王小学校運動場整地終る。 第八代村長新清四郎 （10.7.13 - 14.7.11） 祇王村北、中北、永原と中里村八夫と童子川筋字百貫樋口で大争論、警官70名出勤（12.8.14）	治山、治水、利水と、あらゆる方面に沢山の人物が出た。 また一世の師表と仰がれたのは 杉浦重剛である。こうした立派な人々のほか美しい風光と豊かな史蹟を保存するために滋賀県保勝会が生まれた。青年団、少年赤十字団、処女会、婦人会等ができた。 大正九年の国勢調査では本県の人口は65万人と発表された。 産額7万貫をみた製糸業もヨーロッパの戦争が終ったこの頃から衰えはじめ、本県の茶も内地向にかわってきたが湖辺には 人絹工業をはじめ、いろいろの工業が発達し、工場がたてられた。	日本の重工業はこの頃一応でき上った。
	6				やがて第一次世界大戦が起り、日本の綿製品、メリヤス、雑貨はどんどんと海外に出され、工業の機械化はすすみ、またそのもとをなす発電事業や鉱山業が発達し、都会に人々が集まったが、その
	8				好景気はあまりにも早く不景気を招いた。米の値段はあがり、やがて都会も農村もおしなべて暮しが苦しくなってきた時、関東に大震災が起った。世界中に
	10		祇王村 552戸 2,882人 野洲郡 7,893戸 43,364人 祇王村一年予算 31,408円 村 税 22,637円 教育費 14,838円 役場費 6,518円 第九代村長岩田栄太郎 （14.7.11 - 昭4.7.17）		大正デモクラシーの考えが高まってきた、日本でも議員数の一番多い政党が内閣をつくったり、普通選挙といって大人はみんな選挙権を持つようになった。しかしまだ女子には参政権は与えられなかった。

紀元	時代	逆算	郷土のうごき	近江のうごき	日本と世界のうごき
1926	昭和	27	第十代村長田中久太郎 (4.7.17 - 9.8.8)	農業国近江は遠く6世紀 芦浦の屯倉以来動かないものがある。それを語るものが、	世界をおそった不景気は昭和3年、4年とだんだんきつくなってきた。
	4		悠紀斎田	悠紀斎田で、奈良時代から既に30余回も定められている。	これをきりぬけるために土木事業を起した。この頃済南事件がおこり続いて
	6		野村の奨学資金をうける人多し。	昭和4、5年頃から人々はだんだんと生活をひきしめて、諸事節約の札が戸毎にはられるようになってきた。	満州事変となった。それはやがて日華事変へ、それから太平洋戦争へと進んでいった。
	8		童子川沿岸耕地整理組合設定		国民すべてがあらゆる部門に動員されたが、日本が敗れて終戦となった。
	11		祇王小学校大改築		西日本や福井地方の大地震、アイオン、キャスリン、ヘスター、ジェーン台風で各地に被害が続いた。
			第十一代村長竹内正信 (9.8.11 - 12.8.9)		法隆寺、松山城、松前城、金閣寺、安楽津院と次々に国宝が火災で失われた。
			新川逆水灌漑		そこで重要文化財保護法が生まれた。
			第十二代村長山本喜一 (12.8.12 - 17.9.25)		農地が改革されたり教育制度等すべてが改革された。
	16		家棟川四力所きれる。 (16.6.28)	やがて第二次世界大戦が起こると食べ物不足してきたので、湖辺内湖の干拓や、荒地の開拓がすすめられ、湿地に暗きょ排水が施され、ダムの建設が行われるようになった。	
			同日、本村の川、十余りきれる。		
	17		上永原切所砂止蛇かごきれる。		
			新家棟川改修工事はじまる。		
			第十三代村長森下徳太郎 (17.9.28 - 21.10.30)	戦争中から戦後にかけて山々の木が、むやみに伐りとられた。	
	19		家棟川第二砂防堰堤工事はじまる。	戦争が終わると、農地改革によって自作農が急にふえてきた。米も140万石もとれるようになった。	
1945	20		終戦。本村出身戦死者120柱に近し。	人口も昭和23年の国勢調査では、86万人となっている。琵琶湖八景も選ばれて遊覧船がにぎわうようになってきた。	
	21		日赤診療所ひらく。		
			第十四代村長角繁次 (22.4.5 - 25.5.25)		
	23		第二砂防堰堤できあがる。		
			第十五代村長岩井半四郎 (25.7.8 - )		
1950	25		家棟川廃川になり義王隧道こぼたれる。		
	26		今上陛下辻町御通過。 (11.15)		

紀元	時代	逆算	郷土のうごき	近江のうごき	日本と世界のうごき
1952	27	現在	<p>祇王診療所新築 第1回教育委員五十音順 (岩田信一、白井孫一、 中島重行、山本喜一)</p>	<p>また琵琶湖をあらゆる 方面から高度に利用す ることが真剣に考えら れてきた。これを、 琵琶湖開発という。</p>	<p>そして、 新憲法ができて、平和 文化、民主の国をめ ざして再出発した。 講和条約も結ばれ、日 本は独立国にかえっ た。</p>
1953	28		<p>本村 673戸 3,420人 (80年前と比べよ) 東部中学校開校 (28.1.12) 鉄道の電化による駅の設 置、国道第八号線、弾丸 道路の開通、家棟廃川の 利用 祇王村の姿は新しく変わ っていく。 ひらけいくわが村のかぎ は、やがて諸君に渡され るのだ。</p>		

備考  
「近江のうごき」と「日本と外国のうごき」は、県教育会編「ひらけ  
いくびわ湖」の参考年表をそのまま転載した。